

共生社会を築くインフラとしての社会貢献活動

全日本社会貢献団体機構 会長

杉浦正健



堀田力前会長からバトンを受け継ぎ、全日本社会貢献団体機構(AJOSC)会長の任に着いてから、2回目となる『社会貢献活動年間報告書』をお届けできることになりました。これもひとえに、全日本遊技事業協同組合連合会をはじめ、その傘下の都府県方面遊技業(場)協同組合、支部組合、組合員ホールなど、AJOSCの活動にご理解を示してくださる関係者の皆様のご協力の賜物と感謝しております。

AJOSCの活動の柱である、社会貢献活動に取り組むNPO法人をはじめとする各種団体への助成事業につきましては、2016年度も「子どもの健やかな成長を願う事業」と「東日本大震災の被災者を元気づける事業」の2分野におきまして、22団体への助成を実施しました。少子化をはじめとする社会の変化のなかで、現在の子どもたちが置かれている環境はかつてとは大きく異なってきています。青少年の健全育成は、日本社会の持続可能性の観点からもますます重要性を増していくものと思われまます。また、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からすでに6年が経過したとはいえ、その復興はまだ道半ばといった感があります。これからを正念場として、日本全体で支えていくことが求められています。そうした意味からも、今回、助成させていただいた各団体の皆様には、一層の努力をお願いしたいと思います。AJOSCも、その一助となるような助成事業を今後も地道、かつ着実に継続していきたいと考えております。

もう一つの柱である顕彰事業につきましては、2016年の活動としては前年を上回る約80件の申請をいただき、社会貢献大賞以下、14件の活動に関して顕彰させていただくことになりました。日本の各地で遊技業界のお仲間の皆様が、これほどの活動を実施されていることに頭が下がる思いがいたします。身近な地域社会の問題に主体的に関わり、自発的に解決していこうという皆様の姿勢は、地域社会の住民の方々の共感を呼ぶとともに、業界に対する信頼感の醸成やホールの存在意義の認知につながっていくものと確信しております。

いまや社会貢献活動は、共生社会、助け合い社会を実現するためにはなくてはならないインフラのようなものです。社会を構成する個人も、企業も、それぞれ責任をもって、各自ができることに取り組むことが求められます。これからも一緒に頑張っていきましょう。

継続と変化を両輪に社会貢献活動に取り組む

全日本社会貢献団体機構 理事長

阿部恭久



改めて言うまでもなく、遊技業業界はファンの皆様のご愛顧、地域の方々のご理解のおかげで成り立っております。私どもの業界にとっての社会貢献活動とは、まずもって身近な娯楽であるパチンコやパチスロを健全で安心な環境のもとでお客様に提供することです。しかし、それだけでは社会や地域の方々から信頼を寄せていただくことはできません。パチンコをサービスとして提供する一方で、皆様の日ごろのご愛顧に応えるお礼の意味を込めて、その利益を少しでも社会に還元していかなくてはなりません。

全日本遊技事業協同組合連合会のもとに全日本社会貢献団体機構を設立し、全国で様々な社会貢献活動に取り組む団体の活動を助成によって支援してきたのも、そうした社会還元の一環です。また、社会貢献活動やボランティア活動という言葉が人口に膾炙するようになる以前から、私たちの業界の先輩や仲間たちが、ホールが立地する地域の住民のために様々な活動を人知れず続けてきました。それは安全・安心なまちづくりやコミュニティの絆形成への協力、環境美化活動、青少年の健全育成など、実に多岐にわたっています。そうした仲間たちを顕彰し、活動の継続に向けてお手伝いすることも、AJOSCの大切な役割の一つだと思っております。

これまでの事業を継続していくことはもちろんですが、さらに時代や社会の変化に合わせて私たちの社会貢献活動も多様性を増していく必要があるとも考えています。その一環として注目したいのが、AJOSCの直接の事業ではありませんが、業界の仲間が発起人となり、「pp奨学金(パチンコ・パチスロ奨学金)」を立ち上げたことです。これはお客様の余玉を善意としてご提供いただき、それを原資に18歳以上の日本国内の学校に通う、経済的な理由で進学や就学が困難で成績が優秀な学生などを対象とする返済義務のない給付型の奨学金制度です。その運営は、この分野で実績を持つ「社会福祉法人さほうと21」にお願いすることになっています。こうした活動へのご協力も、ぜひお願いしたいと思います。

ここ数年、遊技人口の減少、ホール数の減少など、ホール業界は厳しい状況にあります。しかし、ここで業界による社会貢献活動の歩みを止めるわけにはいきません。関係機関や協力団体などと意思疎通を図りながら、今後も一丸となって取り組んでまいりましょう。